診療科目 ● 麻酔科学

## 生体制御・麻酔科学　専門医養成コース

プログラム責任者：後藤 隆久

### 附属病院

| | |
|---|---|
| 主任教授 | 後藤 隆久 |
| 診療教授 | 山口 修（集中治療部長） |
| 准教授 | 水野 祐介（麻酔科部長・手術部長） |
| 講師 | 高木 俊介 |
| 診療講師 | 川上 裕理 |
| 助教 | 佐藤 仁、西村 祥一、入江 友哉、木下 充子、辻 和馬、山口 嘉一、原田 紳介、宮崎 智之、藤本 寛子、寺端 昭博、土屋 智徳、佐々木 誠、松田 優子 |

### 附属市民総合医療センター

| | |
|---|---|
| 准教授 | 大塚 将秀（集中治療部長）、藤本 啓子、倉橋 清泰、馬場 靖子（手術部長）、三浦 倫一（麻酔部長） |
| 診療講師 | 水谷 健司 |
| 助教 | 後藤 正美、田澤 利治、岡村 健太、刈谷 隆之、菅原 泰常、細谷 奈央、柳 大介、大川 卓巳、寺田祥子、小倉玲美、鈴木ちえ子 |

### 本プログラムの特徴

高齢者が急速に増えるこれからの日本の医療にあって、手術件数の増加とともに、麻酔科の重要性も益々高まります。

横浜市大の麻酔科プログラムは、そんな将来を見据え、「世界標準」のプログラムを用意しました。

具体的には、教授の後藤隆久自身がマサチューセッツ総合病院で麻酔科レジデントと集中治療フェローを研修した体験に基づき、アメリカの研修プログラムを横浜に再現しました。１年目は手術麻酔、２年目は心臓血管外科麻酔を含んだ高度な麻酔、３年目は小児病院と集中治療（または救命救急）、４年目は専門分野の自由選択となっています。横浜市大プログラムは、癌に強い附属病院と、救急に強いセンター病院の大学附属２病院に加え、全国トップクラスの専門病院を含む、約３０の協力病院から成り立っています。

全国最大の症例数を誇り、専門医取得までに幅広い症例を経験できるシステムです。

詳しくは下記ホームページをご覧ください。

### 目　　標

２０１７年度からの専門医制度改革に２年先立ち、日本麻酔科学会は２０１５年から専門医制度を改革しました。本プログラムでは、日本麻酔科学会の麻酔科専門医を取得するのが第一の目標ですが、それにとどまらず、世界のどこに行っても通用する麻酔科医を育成することを目標としています。

### 目標とする学会認定専門資格

| | |
|---|---|
| 麻酔科標榜医（厚生労働省） | 集中治療専門医（日本集中治療医学会） |
| 麻酔科認定医（日本麻酔科学会） | 緩和医療専門医（日本緩和医療学会） |
| 日本麻酔科学会専門医・指導医（同上） | ペインクリニック専門医（日本ペインクリニック学会） |
| 呼吸療法専門医（日本呼吸療法医学会） | |

### 主な協力病院

横須賀共済病院、横浜南共済病院、済生会横浜市南部病院、横浜市民病院、藤沢市民病院、国立循環器病研究センター、神奈川県立こども医療センター、千葉県こども病院、順天堂大学　など約 30 施設



| 診療科のホームページ URL | 担当者・連絡先 |
|---|---|
| http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~masuika/ | 麻酔科　水野 祐介・山口 嘉一<br>045-787-2918 |

### 診療科の実績

附属病院・センター病院における各部門の実績（2013 年度）
麻酔科管理症例 9,537 症例　うち心臓手術麻酔症例 516 症例
集中治療部管理症例　入室合計 1,189 名、心臓外科・小児循環器 424 名、平均在室日 3.8 日
ペインクリニック　初診 4,568 名、再診 12,310 名、入院 95 名
手術件数増加に伴い、麻酔科管理症例数は年間 5% 近く増加しています。これは、関連病院全体に当てはまる傾向です。集中治療部は大学 2 病院ともクローズドシステムで運営する国内有数の ICU です。ペインクリニック部門も充実しています。麻酔科は他にも院内急変対応や医療安全にも貢献しています。私たち麻酔科に対するニーズはこれからもっと高まり活躍の場が広がっていくものと考えています。

### 指導医から一言

麻酔科教授の後藤隆久です。麻酔科は、初期研修医の間に面白さを感じて選ぶ人が多い診療科です。

もともと興味を持っていた診療科は本当にばらばらです。私の場合も５つくらいの診療科に興味がありましたが、そのうち特に、集中治療がやりたくて麻酔科を選びました。ところが手術麻酔を始めてすぐ、麻酔の面白さにはまってしまいました。

ダイナミックな麻酔管理。輸液、輸血、投薬がうまくいき、手術終了時、患者が痛みなく、安定して麻酔科から覚醒し、手術室を出て行くときの安堵感と充実感。これら麻酔科医でなければ味わえない感覚を、卒業後 30 年近くたった今も毎日新鮮に感じています。

また、日ごろから究極の呼吸管理、循環管理を行っているので、院内救急が起こると、その場に急行して患者の救命に大きな力を発揮できます。

「命を救う」この医療の究極の行為のエキスパートであると自認できる瞬間です。

横浜市立大学およびその協力病院は、先輩の後輩に対する面倒見がよく、シニアレジデントにとっても成長する機会が多い病院群です。

シニアレジデントの先生方には、大学卒業後の貴重な時期に、多くのよい刺激を受けて実りある研修をして欲しいと思っています。

そしてそのお手伝いをしたいと横浜市立大学麻酔科学教室では考えています。

### シニアレジデントからのメッセージ

「一日が長く、一年間があっという間」横浜市大の麻酔科に入ってから、まさにこんな充実した生活を私は送っています。現在手術麻酔を行っていますが、担当する患者さんの状態は実に様々で、手術症例も多岐に渡ります。その患者さんにとって人生の一大イベントとなる手術です。最も適していると考えられる周術期管理を考え、術後回復が順調に進み、無事に退院されることを目指して麻酔をしています。私はまだ修行中ですから、この目標を達成できるよう多様な専門知識を持つ先輩医師に相談し、助言をもらい日々鍛錬しています。横浜市大麻酔科の何より素晴らしい所は、多くの指導医が後期研修医を熱心に指導して下さる環境です。初期研修医の時そう感じ、私はこの医局に入局しました！　入局してみて、それを実感しています。指導医に支えられながら、私たち後期研修医も知識・技術を身につけられるよう、各専門麻酔や集中治療、ペイン緩和、救急領域での研修する場を医局は提供してくれます。

一緒にこの医局で麻酔科医として日々充実した研修をうけませんか？　お待ちしています。　（後期研修医２年目）

麻酔科に興味をお持ちの皆様、こんにちは。

私が横浜市大麻酔科に入局すると決めた最大の理由は、「キャリアプランを大切にしてくれる医局だから」でした。将来どういう仕事をしたいか、そのために何をどう学ぶのか。まだ私が学生で、病院見学で訪れていた頃から繰り返し相談し、入局を決めました。重症患者でも対応できる麻酔科医になる、集中治療も含めて勉強するという目標の実現のために、今、最良の道を歩んでいると感じています。

私の場合、入局１年目で地域の中核病院で約 600 例、２年目に小児専門病院で約 300 例の麻酔管理を経験し、３年目の現在は大学 ICU にいます。いずれの施設も非常に教育的で、魅力的な施設でした。また、このローテーションを決める際には面談を行い、興味のある分野、経験不足の分野を勉強できるよう配慮されています。

私の先輩、同期、後輩たちもそれぞれの目標に向かって努力しており、その姿に刺激を受けながら過ごしています。私たちの姿を見て、皆さんにも市大麻酔科を選んでいただければ幸いです。　（後期研修医３年目）